

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 第6回大会

2017.06.10 (SAT)

福岡県立大学

チーム学校における教育・心理・福祉のコラボレーション

2015年12月21日付の中央教育審議会による「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」では、学校がより困難度を増している生徒指導上の課題に対応していくために、教職員が心理や福祉等の専門家や関係機関、地域と連携し、チームとして課題に取り組むことが必要であるとの提言がなされました。この提言より、今後、福岡県においても教育・心理・福祉の専門職がどのようなチーム体制を築いていくのが大きな課題となってきます。そこで、第6回大会では、「チーム学校における教育・心理・福祉のコラボレーション」をテーマとしました。

午前の部では、「学校現場から求められる『協働』～実践者の声～」をテーマに、熊本仁様(粕屋東中学校校長)と平尚江様(福岡教育事務所SC・SV)のご登壇によるパネルディスカッションが行われました。また、午後のシンポジウムでは、重藤公暢様(福岡県教育庁教育振興部義務委員課主任指導主事)と吉村隆之様(福岡県臨床心理士会教育臨床委員会副委員長・有吉祐睡眠クリニック)にご登壇いただき、シンポジウムが開催されました。

現在、福岡県教育庁義務教育課では、「チーム学校推進事業」にて未配置の16市町村へのスクールソーシャルワーカー(以下、SSW)の配置(平成28年度～29年度)と、指定3中学校区(3中学校・5小学校)(平成28年度～30年度)にSSW、スクールカウンセラー(以下、SC)、生徒指導支援スタッフ(退職警察官)(以下、SS)を配置し、チーム学校の在り方とその成果を検証していくモデル事業が実施されています。また、「SC・SSWの配置に関する検討会議」では、平成30年度に向けて県教育委員会、政令市教育委員会、県SSW協会、県臨床心理士会が参加し、SCとSSWの現行の配置課題及び今後の配置方式等について協議が行われています。

シンポジウムでは、重藤様からは指定3中学校区でのチーム学校体制づくりについて、校内ケース会議の実施、専門スタッフ会議の定例化、専門職間の情報共有の推進により、暴力行為と不登校の児童生徒数の減少の成果が見られていることが報告されました。また、吉村様からは、子ども支援でのSCとSSWの協働の深化や、共同による学校通信の発行及び研修会などの取り組みが提案されました。

私が視察訪問したアメリカ・ハートフォードやカナダ・トロントの学校では、月1回、生徒サポートチーム会議が開催され、校長、担任教師、SSW、スクールサイコロジストが参加して子ども支援を検討していました。この会議の目的は、子どもが抱える課題の予防とチームの協働による早期支援にあります。現在、県の指定3中学校区で取り組まれているチーム学校体制づくりでは、定例の生徒指導委員会を小中学校合同で開催し、SSW、SC、SSが参加し、子ども支援を検討しています。まさに生徒サポートチーム会議といえます。今後、福岡県内の全中学校区でこの生徒サポートチームが展開されていくことが望まれます。さらに、職能団体として、県臨床心理士会と本協会が子ども支援に向けて尚一層協働していく関係性を築いていくことも望まれ、今回の大会がその第一歩となればと考えました。最後にこの多忙の中、第6回大会にご協力いただきました登壇者及び参加者の皆様にご挨拶申し上げます。

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 会長
久留米大学文学部社会福祉学科 教授
門田 光司



Symposium

チーム学校における 教育・心理・福祉のコラボレーション

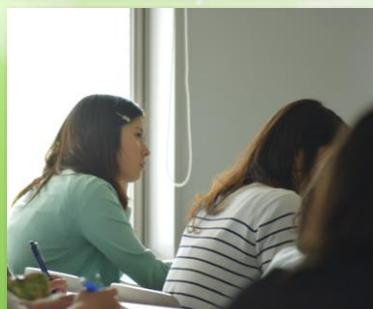
重藤 公暢 福岡県教育庁教育振興部義務教育課 主任指導主事
吉村 隆之 福岡県スクールカウンセラー／有吉祐睡眠クリニック
福岡県臨床心理士会教育臨床委員会 副委員長
門田 光司 本協会 会長／久留米大学 教授



今回「チーム学校における教育・心理・福祉のコラボレーション」について、各領域かりのお話を聞き、共通目標の達成に向かって一緒に取り組んでいく「協働」とそれぞれの専門性を活かした「役割分担」から「チーム」が成り立つことを学びました。「チーム学校」の一員として多職種と協働していくためには、日々の業務を行う中で、スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）としての視点と見立てを常に意識し立ち振る舞うことが重要だと感じます。それは、児童生徒や保護者との関係性づくりの過程であったり、関係機関との情報交換やケース会議の中であったり、場所や状況は様々ではありますが、福祉的視点を大切にすることが出来るSSWがかりこそ、気づける点が多くあると思います。そして、その独自の支援活動が「チーム学校」としての組織力の向上に繋がるよう相互理解を深め、それぞれの専門性を活かせる環境づくりの努めたいと感じました。

正会員 小原 千明

Training



明日から使える

ソーシャルワーク技術

～他機関との連携における情報収集の極意～

講師：奥村 賢一 本協会 副会長／福岡県立大学 准教授
登壇者：梶谷 優子 福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
高口 恵美 大牟田市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
福嶋 美紗 福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

学校現場から

求められる『協働』

～実践者の声～

コーディネーター：池田 敏 福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
発題者：熊本 仁 糟屋東中学校 校長
平 尚江 福岡教育事務所 スクールカウンセラー
スーパーバイザー
土井 幸治 志免町教育委員会 スクールソーシャルワーカー
スーパーバイザー

今日、子ども達が過ごす環境は、多岐にわたる悩みや課題があり、教育、心理、福祉、医療、保健等、各専門職の共働は必須です。今回のパネルディスカッションでは、学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門的立場からの意見を聞くことができ、各機関の役割や現場実践、他機関への期待や誤解、時間軸など感覚の違いについて知るきっかけとなりました。また、複数の職種が連携していくために大切なことを再確認できました。例えば、各機関の視点を尊重し合い、子ども達の特性や課題、支援ニーズを共有すること。共通の目標に向かい課題に対応する時、役割分担や介入のタイミングを打ち合わせること。役割を任せきりにせず、お互いの責任とし、進捗状況や情報を共有し合える関係作り。普段からの信頼関係が大切ということなどです。「子ども達がいかに豊かな人生を獲得できるか。」を根本に、子ども達を中心としたチーム作りが大切だと感じました。子ども達が生活する地域、家庭、学校に関わる全ての人々が、大きな一つのチームであり、子ども達に様々な角度から関係し、影響を与えていることを自覚し、今後日々の実践に取り組みたいです。

賛助会員 佐藤 美雪



PLACE なみきスクエア

YOUSEI

「学校ソーシャルワーク実践
～スクールソーシャルワーカーの役割と機能～」

奥村 賢一
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

SENMON

「子ども(家庭)に会えないケースへのアプローチについて考える
～スクールソーシャルワーカーとして出来ること～」

池田 敏 (コーディネーター)
添田町教育委員会 スクールソーシャルワーカー
高口 恵美 (事例提供者)
大牟田市・八女市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

KISO

「児童相談所の役割と機能がスクールソーシャルワーカー
との関わりを考える」

河浦 龍生
久山町教育委員会 スクールソーシャルワーカー



YOUSEI

第一部では学校ソーシャルワーク実践を「まもる」「支える」「つなぐ」「つくる」の四つの視点から学ぶことができました。「まもる」では教育における権利や機会が保障されているかが、家族支援にどこまで関わるのかという目安になること、「支える」ではスクールソーシャルワーカー(以下、SSW)は自分のやり方を基盤とするスペシャリストではなくどんな対象にも合わせるプロフェッショナルであること、なんで一人で解決するスーパーマンになりたくないこと、「つなぐ」ではあらかじめ繋がっておくことが「つなぐ」ための前提条件であること、学校の先生を巻き込んで支援していくことが鍵だと学びました。中でも「受容」は「自分の枠に相手を受け入れる」ことではなく、「自分から相手の枠に入る」という意味で「尊重」という言葉を「受容」と並べて説明されたのが印象深かったです。受容と共に相手を尊重することも大切にしていきたいと思いました。

第二部では児童相談所の機能・役割からSSWに求められるものを学ぶことができました。児童相談所についてその

機能や役割だけでなく、児童家庭福祉援助をめぐる問題や家族理解のプロセスやアセスメントのポイントについても、もう一度知識を再確認できる良い時間となりました。また、児童虐待における学校の役割や対応についても知ることができ、実践の場で児童虐待に対しSSWとして学校や児童相談所とのように連携を図ればいいのか、母子保健サービスや公的扶助サービスとの連携について学ぶことができました。児童相談所について、SSWについてはそれぞれ今まで学習してきましたが、二つの立場から学校ソーシャルワークや児童福祉について考える機会になりました。

この研修でSSWの役割と機能、児童相談所の役割と機能について改めて整理することができました。得た知識を実践の場でも生かせるように、これからも勉学に励みたいと思います。

学生会員 山下 菜摘



SENMON

今回の専門研修では、子ども(家庭)に会えないケースについて、段階ごとの検討事項についてグループで意見を出し合い、共有をしていました。

まずはグループごとに分かれ高口さんが用意して下さった「カタルト」というカードを使用しながらの自己紹介。コミュニケーションツールを使っての自己紹介で、円滑なグループワークにつながり、良い雰囲気の中で意見も出しやすくなったのではないかと思います。

今回のケースは、管理職の先生からの初回相談の段階で、少ない情報量の中でどのようにしてその相談に応じるかというところから始まりました。その後の情報収集の段階で、子どもや家庭に関して誰にどのような情報を収集する必要があるのかグループで考え、情報が集まり子ども像や家庭像が少しずつ見えてきたなかで学校ができることについてスクールソーシャルワーカー(以下、SSW)の視点から考えていきました。

配置や形態が違うグループのメンバーや他のグループのメンバーの意見を聞きながら、共感できる部分や、また自分一人では考えなかった視点や考えを聞き、自分の支援の傾向を振り返り、次に生かしていく良いきっかけになったと感じています。またSSWとして支援を展開していくなかで、関係機関との連携が必要なケースもありますが、まずは今学校でできること(学校内での体制作り、本人へのアプローチの仕方の工夫など)を考えることが重要であると改めて感じました。

自分自身の実践を振り返り、今後に生かしていく良い機会になったと思います。今後も研修に参加し自己研鑽していきたいと考え、支援の中心にいる子どもに向き合っていきたいと思っております。ありがとうございました。

正会員 永瀬 由季



KISO

「児童相談所の機能・役割、スクールソーシャルワーカー(以下、SSW)に求められるもの」という内容で研修を受けました。初めての児童相談所についての話があり、これまであまり児童分野に馴染みなかった私としては、機能や役割について再確認することが出来ました。その中でも児童相談所は、強権介入のケースあるいはニーズの高いケースの対応が中心となっていること、ニーズが低いケースまたはニーズはないが重症度が低い場合については地域が中心となっているという話を聞き、市町村との役割が明確化されてきているという実態を知ることが出来ました。SSWとして児童相談所の役割についてきちんと理解をし、学校に伝えていくことがとても重要であり、さらに子どもや親、学校の間に入り、事実やリスク、必要性を伝え、子どもの権利を守ることをSSWとしての役割でもあるのかなと感じました。その為にも子どもの声、親の声、いつもと違うなという気付きなサインを見逃さないような支援をしていく必要がある

と思いをしました。研修の最後には、子どもの支援で必要なことということで、「この人だった方がいい」と子ども心に残る、様々な場面で出会った大人の人たちとのかわりが必要であるという話がありました。さらに、生まれてきて良かったという気持ち、感覚を持つことが大事であるという話もありました。地域の中で生活している子ども、そしてその子どもを取り巻く家庭環境は色々な実態がある中で、児童相談所や市町村、保健所、児童委員、学校など関係機関と連携をし、SSWとして子どもの声に耳を傾けること、子どもの笑顔を守ることなどがとても大切なことであると感じました。私自身、SSWとして1年目であるため、まだまだ戸惑うことの多い毎日ですが、改めて考えさせられる時間となり、本日の研修を今後の日々の支援に役立てていきたいと思いをしました。貴重な研修会に参加させていただき、ありがとうございました。

正会員 塚本 房子

2016

12.10

PLACE そびあしんぐら

YOUSEI

「配置形態について」

土井 幸治

志免町教育委員会 スクールソーシャルワーカー

SENMON

「家族システムズ・アプローチを用いた

学校ソーシャルワーク実践～後編～」

奥村 賢一

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

KISO

「子ども支援オフィスの取り組みについて」

磯 恵美 北島 千恵

グリーンコープ生活協同組合ふくおか 子ども支援オフィス



YOUSEI

今日は、スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）の知識はもちろん具体的な現状等の細かい話まで聞くことができ学びを深めることができました。

私は、今、中学校の教員と特別支援学校の教員の免許の取得を目指して大学で学んでいます。学ぶ中で、家庭環境の問題、不登校の問題等時代背景が変わったこともあり教師だけでは対応しきれない問題が多くなり、その問題を他機関と連携しながら対応していくSSWの必要性がどんどん高まっていることを知りました。しかし、SSWの仕事なのか、教師の仕事なのかあいまいな部分も多く実際はどのような仕事を行っているのか興味を持ちました。

研修の内容を聞いて、私は、子供や保護者と関わること、関係機関と繋ぐことがSSWの仕事であると思っていましたが、関わる教員にアドバイスをすることや教員の子供や保護者の関係づくりをサポートする仕事もあると知りました。話を聞けば聞くほどSSWの重要性を実感しましたがそれと同時にこんなスーパーマンのようなことが本当にできるのかと疑問に思いました。

グループワークの際、実際に働いている方に話を伺うことができ、やはり現場はとても難しいとおっしゃっていました。SSWのそもそもの人数が少なく1人でたくさんのケースを抱えなければいけないこともそうですが、まだまだ認知度が少なくSSWの仕事内容を理解していない教員も多くその教員と関係を作りながらサポートをしていくことが大変だそうです。

今回、詳しくSSWのことを学び、これからの学校教育においてSSWは欠かせないと思いましたが、まだまだ働きやすい現状ではないように感じました。学校教育に携わる者としてもっと専門的な知識を増やし他職種が連携しあえる現場を作っていきたいとおもいます。

学生会員 岩本 風花



SENMON

今回は「家族システムズ・アプローチを用いた学校ソーシャルワーク実践後編」ということで、家族システムズ・アプローチを用いて事例検討を行うというものでした。

はじめに、家族システムズ・アプローチとは家族を1つの生体システムとみなし、その特性を理解した上で問題解決の支援をしようとする枠組み概念を持っており、援助者が家族の中に溶け込み、家族とともに援助システムを構成していく中で、家族システムの変化を促していくことが分かりました。援助システムを構成する段階でワーカーは中立的な立場で、家族間の葛藤調整を行うスタンスでいることが大切だと感じました。また、最終時には援助者が家族とともに援助システムを構成していたため、援助者がいなくなり家族のみになった際に細心の注意が必要で、家族が自分たちだけでやっていけると思えるような評価や、何かあったときのための保証、安心感を与えることの重要性を学びました。

その後の事例検討では、家族1人1人の情報から家族内の関係性や置かれている状況について広い視野で検討していくことができ、とても興味深い時間となりました。今後の実践に活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

正会員 澄川 ちなみ



KISO

12月に開催されました、福岡県スクールソーシャルワーカー協会の基礎研修「子ども支援オフィスの連携」に出席いたしましたので報告申し上げます。

昨今、子どもの貧困がフォーカスされる場面が多くみられます。私たちスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）が働くフィールドにおいても、貧困と向き合う子ども・家庭と出会うことが度々あります。研修に参加をしたことで、私たちが行う生活支援の一助を得ることができました。

特に、自立相談支援事業においては経済的な安定を図ることにより、子ども・家庭のエンパワメントを図るツールとなります。その中で、その人らしい生活とは何か・その子どもたちの大切にしている生活はどのような生活なのかを共有していくことが、子ども支援オフィスとの連携には欠かせないと思えました。

第2のセーフティネットとして、子ども支援オフィスが経済的な側面でサポートをすることで家庭の自立を図っていく。そのことが子どもたちの教育の機会を保障することや豊かな成長・発達につながることを学ぶことができました。

これから出会う子どもたちの生活を支えていくためにも、連携していくために私たちSSWが考えていかなければならないことも学ぶことができました。大変良い機会でした。

正会員 後藤 哲哉

2017

2.11

PLACE 大牟田市市民活動等多目的交流施設「えるる」

SHI SATSU

視察先：社会福祉法人 甘木山学園

YOUSEI

「アセスメント」

池田 敏

添田町教育委員会 スクールソーシャルワーカー

上野 健太

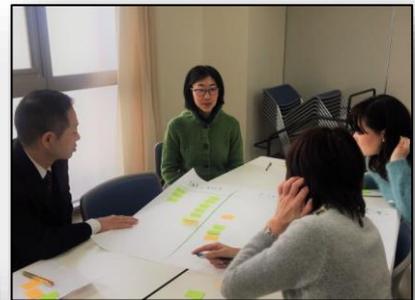
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

TOKUBETSU

「メソレベルでのソーシャルアクション」

竹下 一樹

大牟田市保健福祉部保健福祉総務課地域福祉推進室 相談支援包括化推進員



SHI SATSU

今回は協会研修初の視察研修というところで、普段なかなか入ることができない児童養護施設と乳児院の視察をさせていただきました。施設の外觀はとてもカラフルで、様々な理由で入居することになった子どもたちが明るい気持ちで入っているような工夫がされているのを感じました。

初めに副施設長である坂口さんの講話を受けただけですが、その中で坂口さんが「里親のもとで育つことが子どもたちの幸せとは限りません」と仰っていたことが強く印象に残りました。実際に里親のもとで育った坂口さんが仰るからこそ深く考えるきっかけになったのだと思います。実際に甘木山学園を案内してもらっている際に何人かの子どもたちに会いましたが、みんな元気に挨拶をしてくれて楽しそうに遊んでいる様子にほのぼのすることができました。もしかするとその子どもたちも笑顔になるまでにはそれぞれに様々な苦悩があったのかも知れません。しかし、子どもたちの笑顔を見ていると坂口さんをはじめとする職員の方々が何よりも子どもたちを第一に考えてあげているのだということが伝わってきました。里親にしても施設にしても、それぞれのメリットやデメリットをしっかりと理解し、その子にとって最良の幸せとなるように環境を整えてあげることが福祉職として大切なのだと感じることができ貴重な研修となりました。ありがとうございました。

正会員 宮城 亜由己

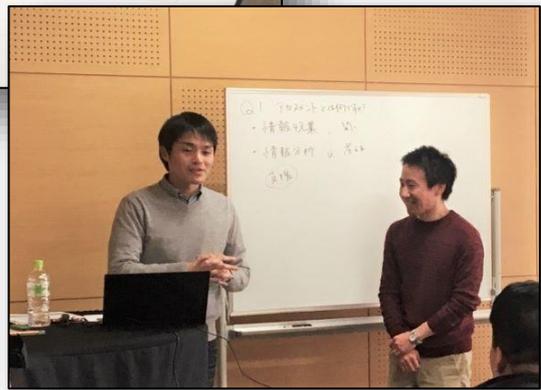


YOUSEI

雪の影響で交通機関の乱れが心配される中、福岡県の南端・大牟田に多くの会員が集い、今年初めての研修会が無事開催されました。私は、養成研修に参加させていただきましたが、今回は『アセスメント』をテーマに、講師の池田さんと上野さんのご指導のもとグループワークを行いました。アセスメントは、私たちスクールソーシャルワーカーが、学校現場で支援をしていくうえで欠かせないものですが、しっかり理解しているかと問われると自信が持てません。研修では、講師から出された質問を用紙に解答しながらアセスメントについて考え、架空の事例についてエコマップを作成しました。

アセスメントとは、支援に必要な情報収集・分析ですが、他職種から転職した1年目の私に、簡単にできることではありません。情報は必要なものをだけ収集しなければなりません、不要な情報まで収集しがちになります。何が必要な情報なのかを見極めるのは難しいのですが、できるようなることが当面の課題です。ただ、私の作成したエコマップが池田さんが書かれたものと一致したのはほっとしました。アセスメントの力は一朝一夕に身につくものではありませんが、今日学んだことを今後の実践に生かしていきたいと思っています。

正会員 喜多 雄治



TOKUBETSU

私は今回の研修会が3回目の参加ですが、県南部地区での初めての開催、そして、特別研修では今までの研修とは少し違う視点の医療の現場から見た「メソレベルでのソーシャルアクション」というテーマの元、第一部はコーディネーターの竹下さんの実践事例報告、第二部では個人ワーク・グループワークをしながら、ソーシャルアクションを起こしていくための実践方法を体験させて頂き、充実した時間を過ごさせて頂きました。

第一部では、医療の現場から地域へと戻っていく中での、患者の方々の不安・葛藤・心配がとても大きく、自宅や地域へと戻ることへの選択が難しい現状から、竹下さん達がより良い地域作りを目指してソーシャルアクションを起こす過程の実践報告を拝聴しました。私は現在学生ですが、去年夏の医療現場での実習を体験しており、その実習とは違う一面を伺うことが出来ました。様々な現場での支援を必要としている方々のために、迅速な判断で臨機応変に対応する一面（地域の方々同士の関係性の希薄、サロンを開設することにより信頼関係の構築が出来、そこから地域のニーズを把握する等）や、一つの事を着実にこなして身に付けられ

た（徘徊模擬訓練などを一度きりせず何度も回数を重ねて行く等）をすることにより、子どもから高齢者までの地域の方が率先して行動しやすい環境が根付き、マイクロ～メソレベルでの関わりが増加することで、連携がうまく進みぬような問題にも素早い対応が可能になりやすいことが理解でき大変勉強になりました。

また第二部でのグループワークでも、まずは自分の身近なことから考えることにより、何が必要なのか、どのようなことが支援への取り組みに繋がるのか（困っていること+もったいないこと=事業として考えるか??）実践を交えながらグループワークすることにより、広い視野で捉えることが出来ました。このように現場で働いておられる方々の実践報告を拝聴し経験を積み重ねることにより、専門職としてのスキル向上、そして自身への意欲の向上にも繋がるのだから改めて実感致しました。本日は貴重な研修に参加させて頂き、有難うございました。

学生会員 佐藤 律子

FASSW 協会 会員 Q&A

福岡県スクールソーシャルワーカー協会を支えてくださっている会員の皆さんが、スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）についてどのような思いや考えを持たれているのかインタビューをさせていただきました。今回お話を伺ったのは、今年度から SSW として活動されている廣瀬さんと、SSW について学ばれている学生会員の久我さんのおふたりです！

廣瀬 亜美

Hirose Ami

北九州市教育委員会



SSW 1 年目で感じた喜びや苦勞について伺いました！

Q1. SSW として働くことの魅力は？

多面的（福祉、教育、医療、司法等）な視点で子どもたちの置かれている環境を考えることで、日々新しい気づきを実感できること。子どもたちの成長を身近で見守ることができる限られた仕事の一つであり、人の人生に関わることができるのは魅力だと思います。

Q2. 働いて驚いたことは？

先生方の業務量や責任の重さ。先生方の役割と求められている SSW の役割を把握して、みんなで子どもたちを支える環境が必要だと改めて実感しました。

Q3. 1 年目で感じた苦勞や自分自身の変化は？

先生、関係機関に顔を覚えていただき、SSW として信用していただけるまで関係を築くことを目標とした 1 年間。何度経験しても緊張するのは、経験を積み重ねてきた方々を集めてのケース会議で司会を務めることです。自分自身の知識の少なさや弱みを感じて焦る 1 年間でした。自身の変化としては、根拠に基づいて考える必要性を感じ、法律や通知を読むことが増えたと思います。

学生だからこそ感じる SSW に対する思いについて伺いました！

Q1. SSW について学ぼうと思っただきっかけは？

1 番に守り、守られるべき存在である子どもの力になりたいと思ったからです。何かできることはないかという思いから社会福祉士を志すきっかけにもなり、理解を深めたいと思い、学ぼうと思いました。

Q2. 学生が感じる SSW の魅力とは？

悩みを抱えている人の背景、裏側を見る力や考える力、代弁する力を持っていること。課題に対してのアプローチ方法が様々で SW の発想力、柔軟性などが問われ、正解がないところ。子どもの持つ将来の可能性を広げることやつぶさない手助けやきっかけ作りができること。



久我 紗喜子

Kuga Sakiko

F.C ouchigami 医療福祉専門学校

SSW として働いている人や、SSW を目指す人たちにとって大切なことを教えていただきました！ありがとうございました！

Pieces

Piecesでは、SSWに関わる方々を、リレー形式でご紹介していきます！

Tango Chiharu



丹後 ちはる

福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

平成25年度より福岡市でスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）をしています。丹後ちはると申します。前職は大学病院で医療ソーシャルワーカーを経験後、障がい者の相談支援事業所で生活相談員をしていました。

皆まんもやうどと思いますが、この仕事は毎年濃い1年だなあと感じています。その中でも子どもたちとの出会いは毎回学ばせていただく出会いばかりです。毎年出会う子どもたちは、自分の想像を超える状況に置かれている子どもたちです。しかし、その子どもたちですがその子どもたちも少し一面を持っていてその言動に活力をもちっています。この4年間でもいろいろな子どもたちと出会いました。特に印象に残っているエピソードがあります。今年度に入り中学校卒業まで数年関わっていた子どもと偶然再会しました。その子どもが、「私、ずっと中学校卒業し方々働くかな～と思っちゃったけど、高校に行き方々って話をしたり、いろいろな先生が助けてくれて高校に行くことができました。今、いろいろなことあるけど、それなりに楽しいよ！」と笑顔で話をしてくれました。様々な環境で頑張っている子どもはたくさんいるけれど、この子は自分で自分の将来の道が少し開け方々かな、と思ったりそのような人生の1部分にでも関わることができる仕事はなかなかないなあとSSWの魅力にさらにはまった瞬間でもありました。

しかし、私は本当にSSWとしてまだまだ未熟なので、協会での研修や自学、様々な方々の出会いを大切に、もっと成長していきたいと思っています。

最後にになりますが、ここで少し自己紹介をしたいと思っています！年齢は非公表にしたいと思いますが（笑）趣味は旅行です。ここ4～5年は海外にも行っていますが、国内外問わずいろいろなところに行ってみたいと思っています！オススメな場所やスポットがあれば教えてくださいます！よろしくお願いします。

FASSWより：協会情報は、ホームページとFacebookにも掲載しております！！

ホームページ fassw-2012.jp

Facebook 「福岡県スクールソーシャルワーカー協会」

広報委員会からのお詫び

このたびは、第12回の広報誌配信が長期に渡り滞りまして、申し訳ございませんでした。また、早く研修感想の執筆をうけ賜って下さった皆様方には、深くお詫び申し上げます。

発行責任者： 奥村 賢一

編集担当： 広報委員会 蒲池 恵 坂本 美紗 上野 健太

お問い合わせ

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局

〒804-8550

北九州市戸畑区仙水町1-1

九州工業大学 学生総合支援室（担当：下田）

TEL:093-884-3727 / FAX:093-884-3727

